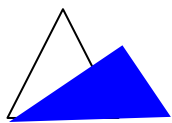


せせらぎ



2020年 11月

No. 373



滋賀県勤労者山岳連盟 湖南岳友会



目 次

目 次 / 今月の予定	P 1
表紙からのメッセージ	P 1
私のひとりごと	P 2~3
月間山行記録	P 4

1 1月の予定

新型コロナウイルス感染予防のため、例会山行及び定例会議
自粛中です。

《表紙からのメッセージ》

『仲間とスイスへ旅行に行った時のものです。うらやましさと諦めの混じった気持ちで
出発する二人を見送っていたのを思い出します。』

M.A

NHK のテレビ番組で「日本人のおなまえっ！」というのがあります。

日本人の名前の由来だけでなく、食べ物の名前なども取り上げていて、私はよく見えます。山の名前の由来など取り上げて面白いと思いますが、今のところ放送される予定はないようです。いずれはテーマになるとと思いますが、その前に私から。

■白馬岳は「はくばだけ」それとも「しろうまだけ」？

白馬岳の由来は、右の写真のように、春になると雪が融けて「代掻き馬」が現れることから「代馬」つまり「しろうま」岳となったものです（代掻きとは、田に水を入れて土を砕いてかきならす作業らしい。）。昔はこうした雪の融け具合で農作業の時期を判断したようです。



こうしてみると「白馬」でなくて「黒馬」です。

ところが大正時代に陸地測量部（今の国土地理院でしょうか）による地図には「白馬岳」と記載されていて、「しろうま」の漢字としては「代馬」でなく、「白馬」が定着したようです。そして「はくば」と読まれるようになり、最近では村や駅、スキー場などの名前が「はくば」となったので、一般的には「はくば」が定着しているようです。JR の窓口で「しろうま」駅までと言っても、駅員さんは分からないかもしれません。

ただ、登山者の間では「しろうま」が主流のようで、私もこの方がおおらかなイメージがあって好きです。先日テレビニュースで『「しろうま」岳に通じる「はくば」大雪渓で』と言っていましたので、放送も山名は「しろうまだけ」が使われているようです。

■五竜岳は竜とは関係ない？

「竜」,「龍」のつく山はたくさんあって、滋賀県でも竜王山、竜ヶ岳など、いくつもあります。日本では竜は水の神として信仰され、雨乞いに関係した山に竜を付けたこともあるでしょう。

白馬岳の南にある五竜岳も、豪快な山容もあって竜がぴったりとあって思っていたのですが、実は由来は竜とは関係ないようです。



右の写真のように、これも雪解けの時期に頂上付近に武田家の紋章の武田菱が現れるため、「御菱（ごりょう）」から転訛したという説があります。異説もありますが、いずれにせよ、竜とは関係ないようです。

■金勝アルプスの鷄冠山は「けいかんざん」それとも「とさかやま」？

最近滋賀県以外からも多くの登山者が訪れる人気の金勝アルプスですが、北の方に鷄冠山があります。「けいかんざん」と読まれることが多いですが、以前から「とさかやま」とも読めると気になっていました。

数年前に明快な答えをしてくれた知人がいて、栗東市の広報にも書かれています。これも、もともとは「とさかやま」で、その後「けいかんざん」となったというのが正解です。

江戸時代の資料には「砥坂山」と記され、もともとは、この地域で砥石がとれたことに由来するといわれています。その後、明治時代に「鷄冠山」という表記が見られるようになりました。確かに3つのピークがあって、同じ「とさか」と読める鷄冠に形が似ていますので、しゃれか、間違いで鷄冠山になったのでしょう。

大正時代ではまだ「とさかやま」の読み仮名を振っている資料があるので、「けいかんざ

ん」と読まれるようになったのは、さらに新しい時代になってからのようです。

今では「けいかんざん」が一般的のようですが、個人的にはこれも「とさかやま」の方が好きです。

日本の漢字は複数の読みができるという、世界的に見れば珍しい文字で、山の名前もこうした面白い変化が可能なのでしょう。中国でも基本的には漢字の読みは一つらしいです。

■比叡山の北にある大尾山は地元の人は知らない？

滋賀県と京都府の境で、京都大原の東に大尾山という山があります。最近できた比良比叡トレイルが通ります。昔は今のように山の名前が統一されていなかったようですが、地元の人は「梶山」と呼ぶ山はあるが、「大尾山」は聞いたことがないというのです。

「梶山」→「梶」が「へん」と「つくり」に分解されて「木尾山」→「木」が「大」になって「大尾山」

どうやら何かのミスで、梶山が大尾山になったのではないかということです。そんなアホなという気もしますが、昔は手書きでしたので、こんな間違いが起こっても不思議ではないかもしれません。

手元に残っていた 1999 年発行の国土地理院の地図には、たしかに「大尾山」となっていますが、最新の電子版では「梶山」となっていますので、国土地理院も間違いを認めたのか、今は「梶山」が正式名称になっているようです。

私も以前に大原からこの山に登って、当時の地図の「大尾山」はどう読むのかな？と思っていましたが、長い間、間違った名前が使われていたようです。

■矢筈ヶ岳も以前は間違った名前だった？

湖南アルプスの矢筈ヶ岳も、国土地理院の地図が 1998 年に訂正される前は「八筈ヶ岳」と記されていたということです。

矢筈とは、矢の末端の弓の弦（つる）を受ける、切込みのある部分のことで、この山は双耳峰で真ん中がへこんでいることから、「矢筈」と呼ばれるようになったのでしょう。これも由来からすると、訂正前の「八筈ヶ岳」も読みは同じですが、読みから違う漢字を当てて、間違った表記がされていたようです。

■「途中」という地名は良い加減のようで、実は深いわけが？

山名ではありませんが、比良山系の坊村や平に行く途中、京都からの道と合流するところに「途中」という地名があります。私たちには馴染みのある地名ですが、以前から良い加減な名前に思えて気になっていました。

これは NHK の「日本人のおなまえっ」で明快な説明がありました。

良い加減な名前どころか、比叡山の千日回峰行と関係ある、歴史的な由緒正しい名前なのです。千日回峰を始めたのは比叡山延暦寺の相応和尚ですが、武奈ヶ岳登山口の坊村も修行の場で、今も登山口のところに葛川明王院があります。相応和尚が比叡山と葛川明王院を往復するとき、ちょうど途中にあるこの地を「途中」と呼んで、それが今も 1150 年間伝わっているということです。確かに比叡山と坊村のちょうど真ん中あたりです。

現在も回峰行をするお坊さんが年に 1 回、比叡山延暦寺から葛川明王堂まで歩かれますが、この地で休憩されるとき、代々お世話をする家が今も残っているということです。

また高島市にも字の違う朽木の栢生（とちゅう）があって、ややこしいです。

山に登るためには何の役にも立ちませんが、山の名前を調べるのも面白いです。

2020年9月山行記録

山行期間	山域・山名	例会等	参加者数		ブログ掲載
			会員	会員外	
9/5	釈迦が岳(1799.6m)		3	2	
9/5	箱館山		1	1	
9/5	音羽山		1	2	
9/6	北小松しし岩		3	3	○
9/8 ~ 9/11	飯豊		1	1	
9/8	比良山系・釈迦ヶ岳		1	1	
9/13 ~ 9/14	伊吹山夜間登山		2	2	
9/13 ~ 9/16	北アルプス 蝶・常念・大天井・燕縦走		1		○
9/14	比叡山		1	1	
9/14	鏡山(滋賀)		1		
9/15 ~ 9/16	木曾駒ヶ岳 上松 A コース		2		○
9/15	京都/小倉山・嵐山		1		○
9/16	上信越・八海山		1	1	
9/19 ~ 9/22	北アルプス・池ノ平山		2	5	
9/20 ~ 9/22	劔岳・立山		3		
9/20 ~ 9/23	立山周辺		1	1	
9/21 ~ 9/22	三ノ峰・別山		2		
9/21 ~ 9/22	硫黄岳、横岳、赤岳		1	1	
9/21 ~ 9/23	前穂高岳		1		
9/21	海谷山塊 権現岳～鉾ヶ岳		1	3	
9/21	伊吹山 1377m		1		
9/21	雲洞谷山		4	3	○
9/21	金勝アルプス		2		
9/26	津市、経ガ峰		3	2	
9/26	鈴鹿山系・高円山～水沢岳～白滝山		1	1	
9/27	菩提寺山		1	10	
9/28 ~ 10/2	富士奥庭・大沢崩・青木樹海散策・他		1		○
9/28	鈴鹿山系 ・ 鎌ヶ岳～雲母峰		1		
9/30	大文字山		1		
9/30	大文字山		2		

※ コース、人数等は、事前に提出された計画書に基づいて記載していますので、実際とは異なる場合もあります。

近郊の三上山、音羽山などの個人山行は、通常は記載しません。

複数の月にまたがる山行は、両方の月に掲載しています。